

# 会 議 録

会 議 名	令和元年度第 1 回 辰野町図書館協議会
開 催 日 時	令和元年 8 月 8 日 (木) 午前 9 時 10 分～10 時 50 分
場 所	小野図書館 1 階児童室
出 席 者	委員 6 名中 5 名 (沖山委員欠席)、事務局 3 名、小野図書館職員 1 名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会のことば</li> <li>2. 委嘱状交付</li> <li>3. 教育長あいさつ</li> <li>4. 自己紹介</li> <li>5. 協議事項 (進行 会長) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平成 30 年度図書館利用状況について</li> <li>2) 令和元年度蔵書点検結果報告</li> <li>3) 令和元年度図書館事業について</li> <li>4) その他</li> </ol> </li> <li>6. 閉会のことば</li> </ol>
会 議 結 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 委嘱状交付 2 名 (田中委員、福島委員)</li> <li>5. 協議事項 (進行 会長) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平成 30 年度図書館利用状況について 事務局から説明し、質疑を経てご了承いただく。</li> <li>2) 令和元年度蔵書点検結果報告 事務局から説明し、質疑を経てご了承いただく。</li> <li>3) 令和元年度図書館事業について 事務局から説明し、質疑を経てご了承いただく。</li> <li>4) その他 図書選定について 図書選定用紙をお渡しし選定にご協力をお願いした。 小野図書館について 館長より説明。 閉会后、小野図書館内をご覧いただき散会した。</li> </ol> </li> </ol>
発 言 者	発言の内容
会 長	(1)～(3)まで説明後)、いったんそこで区切らせていただき、1) 図書館利用状況からご質問などあったらお出しいただきたい。
B	監査員の指摘事項とは、児童の利用する人が減ったという指摘なのか、読んでいる本が減ったということか。
事 務 局	昨年 of 定期監査で指摘があった。昨年 of 定期監査で見ていただいたのは平成 29 年度 of 利用状況だが、その中で貸出冊数が前 of 年に比べて 3,000 冊ほど落ち込んでいる。それをご覧になって主に冊数のことは言っていた。これは当然利用数と連動してくるものなので、冊数を伸ばせばいいというものではないと私どもは認識している。実際、目に見えて子ども of 入館者は少ないというのは感じている。今 of 夏休みの時期であっても割合少ないという感じは確かにある。
会 長	そういう傾向になってきたのは急なのか、だんだんここ数年の間でなってきたのか、もうひとつはその理由というか原因はどんなところにあるのか。
事 務 局	私どもは図書館に来る状況しか把握できないのでそこから先 of ことは分からない

事務局	<p>が、昨年あるいは一昨年急激にということではない。ここ7、8年くらい、ずっと貸出も利用も伸びていたが5年ほど前から頭打ちで、それから段々減少傾向という形になっている。理由は把握しきれない部分がある。特に夏休みの課題解決で言えば、図書館の本を使って課題をやりましょう、という呼びかけをずっとしてきたが、やはりインターネットで調べてそれで終わりにしてしまうという傾向はかなり強いかなという推測はしている。</p>
D	<p>学校現場として、今の夏休みの課題に必要な資料が図書ということだが、学校の中でも以前は、本当に6～7年、5年くらい前まではこういう調べとか研究に使うものがないとか、そういう本を探す姿が夏休み前にはあったが、こ2～3年はほとんどないというか、私のほうで思ったものは展示してありそれは何冊か借りられるのだが、子どものほうから率先してこういう本がないかと言ってくることはなくなってきている。研究自体は課題としては出されているが以前のように全員がやるという形ではなく、2つ3つの中からどれかひとつ、新聞にするか研究にするかという感じで、以前はみんなやるという形だったのがそういうことではなくなってきている。課題の出し方がちょっと変わってきている。西小では理科の先生が結構丁寧に見てくださっているというのものもあるのかも知れないが、でも確かにネットのほうに情報検索が偏るということはあると思う。貸出は一番借りられたときに、5年位前が一番多かったと思う。一人平均120冊、今は下降してきて110冊あたりで止まっているが、1冊、2冊の一人平均でも人数にすると年間で見るとかなり大きい数字になっている。前回は話したがやはりゲームが影響しているのと、あと社会体育で宿題する余裕もないという子もいる。</p>
教育長	<p>昔は一研究を全員がやった、それが当たり前だった。一研究それから図工、ポスターを描くとか、社会科新聞を書くとかの3点セットみたいに言われていたけれど今はもうその中から一つか二つ選ばばいいようになってきている。確かに小学校中学校の課題の出し方は大きく変わっている。今学校の図書館の話があったが、学校によって差がある。両小野小あたりは高いと思う。一人平均貸出100冊は超えていると思う。学校によってかなり差があると思う。では両小野はどうして減らないのかとか、どうしてみんなが読むのかというところを逆に調べる必要があるのかも知れない。</p>
D	<p>場所が、立地がよいのだと思う。子どもたちが行き交う、学校の中心にあるという。通り抜けだめというけど5年生のほうから3年生のほうへいく、その中へ入ったときにちょっと立ち止まってみる子もいる。(西小は学年の教室等の端にあるが)図書館から離れれば離れるほどやはりなかなか。図書館の時間は先生方が確実に取ってくださっているのである程度一定の貸出数は確保できるが、それより増えるというのは結局休み時間にどれだけ来てくれるか。</p>
会長	<p>本館について、入館者数は伸びているが利用者が減っている。この利用者と入館者というのは。入館者はどういうことに使っていることが多いのか。</p>
事務局	<p>利用者数というのはカードを使って図書館の資料を借出した人の数。入館者数というのはカードを使うことなく図書館に出入りした人の数。入館者の中に当然利用者は含まれる。(資料)入館者の表をご覧くださいと顕著な月が2つある、2階の入館者数が8月と11月が非常に多い。11月は図書館まつりで除籍本のリサイクルを2階設置するため数が伸びる。8月はサマーライブラリーで9時30分に前倒し開館の休館日なしだが、学習室で冷房を効かせているので学習室の利用が目に見えて多いと感じている。入館者増えた大きな要因というのは2階の学習室の利用と、全体的に増えているのも、図書館の本は借りないが毎日決まって新聞読みにくるとか、午後2時にきてこの雑誌を読むというような、暮らしの中に図書館の利用が組み込</p>

事務局	まれているような方も増えてきているという感じはする。
会長	2) 蔵書点検の結果についてはいかがか。不明本が少ないということで管理されている皆さんの努力の賜物と思うが、借りる人たちのモラルという面もある。同規模の近隣の図書館では相当あるのか。
事務局	1パーセント、たとえば7万冊蔵書があれば70くらいは一般的にはあると聞いているので、とても少なく今年はびっくりした。補足として、今年は蔵書点検を公開というと大げさだが、図書館の蔵書点検というのがどういう作業なのかということを中心にいろいろな方に知っていただくことで、図書館の仕事というか、理解を広めていきたいという意図もあってボランティアを募集した。4名の方がご参加いただき実際に資料の読み込み等のお手伝いもしていただいた。こういった作業は初めてだったけれども、こういった作業があって管理されているということが分かったというお話をしてくださった方もおり、また来年も参加したいという方もいた。それ以外に図書館でできるボランティアがあれば関わっていきたいというお声もいただいでいて、参加された方からはとても前向きな感想をいただいているので、来年も引き続きやっていければいいと、職員の反省会の中では総括している。
会長	3) 元年度の事業について。もう終わっているものもあるのでご参加された方は感想でも。
B	工作を取り入れることが多いとか傾向はあるのか。今流行りだから図書館でやってみようとか。なかなか今社会教育の施設でも辰野は充実してるとは思えないのだが、図書館というところはそういったところでは大人から子どもまでが、利用するにしても関わるにしてもとっつきやすいところだと思うので。こういうのを見ると関心があって地元でも何かできないかなと思う。
事務局	工作教室はずっと前からやっている。ずっと昔からやっていてそれを踏襲してやってきたが、最近はボランティアセンターとか茶の間とか、あるいは美術館のワークショップだとか、結構そういったクラフト的なものはあちらこちらでやるようになってきているのは皆さんご存知のことと思う。図書館としては、図書館らしい催しをやっていかないと、生き残りという大げさだが差別化できないのではないかとということで、図書館にふさわしい催しというのを昨年、一昨年頃からはずっと考えてきている。工作でいうと、科学工作教室というのはあまり他ではやっていない。理科読といって、理科に読むと書くのだが、理科読につながるものとして科学工作教室を昨年からは始めたり、絵本や読み物に関わるクラフトをしたり。今年はポプラディア活用講座というものを、ポプラ社の社員をお呼びして小学生対象に総合百科事典の引き方を教えていただくような講座も計画してきた。先ほど、大人から子どもまでとっつきやすいといただけたが、親子で楽しめる行事や催しももちろん考えている。もう一つは、昨年、宮沢賢治の読書会「注文の少ない読書会」というのが発足してもうじき一年になりますので、今年の図書館まつりはその読書会を真ん中に据えていろいろなイベントができればと今職員の中では考えている。確かに守備範囲が広いので、赤ちゃんからお年寄りまでというところでどこに的を絞ったらいいのかという難しさもあるが、対象は行事毎に絞ってどういう人たちを対象に周知していこうということではある。こうしてみると図書館も通常業務以外にこういうイベントをコンスタントにやっていかないといけないので、非常勤の方たちが一生懸命考えてやってくれて、そういう方たちの人脈で講師の方をお呼びしたりお招きしたりということが今できているのかなと思っている。どうしても限度があるので、こういった催しなどについても協議会の皆さんからこんなことも楽しいんじゃないかというようなことを教えていただけるとありがたい。

B	<p>図書館が本を中心としたことがあくまでも事業的には大事なことで、それを他の事を通して本に近づいてくればというの分かる。ただこういう催し物というのは担当者がやってくると行き詰ることは確か。段々大変になってきて、私たちは図書館の仕事をしているのに何でこんなことまでやらなくちゃいけないの、というのが負担になってくると内容自体も大体つまらなくなってくるというのがよくあるパターン。だから今言われたように、そこの接点をどう作るかということと、さっきの話ではないが一般の人に蔵書の点検をしてもらってそこに楽しみを覚えるとか、今まで本に関心なかったけれど本を片付けてたら昔読んでいた本が出てきたとか、そういった楽しみを見つける、そういう人たちが増えてくれることによって、今度はこんなことやってらっしゃるという、そういう人も育てるといふかそういう関係も一緒に少しずつでもしていかなないと尻つぼまりで大変な思いばかり職員のほうになるのがいかがなものかと思う。私も地域のふれあいサロンというのを担当しているが地域にはやはり面白い人が結構いる。だからそういったものと図書館が、私も関わらせてもらっている以上はそういったところでまた図書館を利用した接点が生まれてくればいいと思う。</p>
事務局	<p>この催しの中でも半分位は外部講師とかボランティアで、職員が担当しているのはホリデイ・くらふと位。実際職員が自分で覚えて教えるというのは。ぜひそういった図書館の団体をつくっていただければ。箕輪町あたりは郷土館・図書館・公民館の講師になれる人の養成講座というのを共同で開いているというニュースをこの間みたが、そんな形で支えてくださる方が増えていけばまた新しい転換もあるかと感じる。</p>
B	<p>そういうのはネットワークが開ければいいと思う。</p>
会長	<p>今のご提案は非常に大事なところだったと思う。行事の一覧を見ると、すでに何年か継続をしているもの、これから継続してほしいものもある。例えば、遠野の昔語りには2度目になるか。昨年参加してとてもよかった、継続できればと思っている。宮沢賢治は2年目か、そういうものもある。図書館とは関係ないが私も十数年前に町の山に関わる仕事を十数年やった、そのときの反省だが、比較的興味や気力・体力が充実しているような年代のものがやるぞって言うとなんか続くが、結局若い人たちを取り込んでこなかったことが、これは「横川溪谷開山祭」という催しで13年やったが、たぶん今林道は荒廃してしまっていると思うが、そういう風にはいい試みでもそれを継続していく人たちが育成していかないといけない。地域の人材を活用できるように、箕輪の話でそういう養成講座をやっている、参考になることは町でも取り入れればよいかと思う。</p>
A	<p>図書館のボランティアはその行事ごとに募集をするのか、それとも窓口はひとつなのか。</p>
事務局	<p>今のボランティアの現状を申し上げますと、まず図書館の環境整備の作業などは装備の関係と外回りの作業に定着している方々がいる。装備というのは本にコートをかける作業だが、それについては10月の大人のホリデイ・くらふとの中で講座をしてその中から入ってくださる方を見つけていこうということでやっている。環境整備とそれ以外が読み聞かせの関係が絵本講座という勉強会を中心にボランティアを募るといふか割り当てをしてやっていただいている。絵本講座については基礎講座という読み聞かせボランティアの養成講座的な位置づけのものがあつた、その基礎講座を卒業した方が絵本講座に入って読み聞かせのボランティアに入っていくというサイクルがずっとできていて、平成24年度から基礎講座をやっているが、毎年3人から5人程度、新たに絵本講座に入って読み聞かせボランティアに参加をしてい</p>

事務局	ただいている。行事については、行事ごとにほとんどお願いする方が決まっております。その方に直接お願いをしている。ボランティアの申し出の窓口は、一本化ということではなくて、お問い合わせいただいたときにこういうボランティアがありますとか、その都度紹介をしているのが現状。
D	グループごとの連携というか、一緒になるような場所はないか。図書館にかかわることで時間が不定期でもって思っても、どれも当てはまらないような感じでそれで参加し損ねている。
事務局	図書館でお願いしているボランティアにはこういうものがあるって、こういう方たちが参加されていて、随時加入いただけるとかお問い合わせくださいみたいなものがあると参加しやすいか。
会長	まず聞きに来れば団体ごとにこんな活動してるとか紹介を、直接話が聞けたりそういうことができれば。例えばこの、万葉の会とか木魂の人たちとかが一同に会する機会というのは年に1回くらいあるのか。
事務局	ない。万葉や木魂はボランティアというよりは自分たちの勉強会のグループで、定例会が決まっているがそういう人たちの交流もないし、それぞれのボランティア、読み聞かせボランティアの方と環境整備のボランティアの方との交流会もない。個人的にダブっている方は何人かいる。
B	今の話で、何年も両小野学園のボランティアという形で関わらせてもらっているが、ただボランティアをやっても勉強にならないということがわかって、去年、地域コーディネーターという文科省の講座を受講した。三万円ほどかかったので元を取らなくちゃと一生懸命そのときだけ本を読んだけど。そこに出てくるのは地域の人たちの個人の中で何を楽しみにするのかといった生きがいみたいなものと、行政としても色々な団体にしても、こういう人たちを求めているというのを、どう調整をしていくかというのがコーディネーターの仕事ということで、満足度と求むものをどのように通知化するか、情報をどのように整理していくかというのを勉強した。今これだけネットとか持っている、そういったものが発信されない。辰野の中でも、ボランティアセンターも以前から関わらせてもらっているが、ボランティアの人が会場を掃除したりとか、この前は交流会をやって、ただ飲み食いしたってどうしようもないので、そこでアコーディオンの人が来てみんなで歌いながらボランティアをいつもやっている人たちと、ボランティアセンターには行ったことないけど何かそういう楽しみがあるというので出かけたという人たちとの交流がある。あれを見たときに、そういうものが社会教育の中でも、そんな堅苦しくなくても、情報を受ける側と発信するようなものができてくれば。そうすると、「なんか図書館で来週、手が空いている人は何時から何時までって言うけど私でも」とか、その合間、合間を瞬時に見られる、そういうのが辰野の広いような狭いような町の中に交流が。みんなが集まってやるというのはなかなか、誰が音頭とりになるとか大変だけど、情報を共有できるようなところがあればそれもありかと。
A	一応オープンなのか。誰が行っても。
事務局	大丈夫。声の会木魂も年に2～3回、図書館を会場に朗読会をやって、仲間大募集っていつも出しているがなかなか実際は会員増には結びつかない。情報発信は弱いというのはある。地域コーディネーターならぜひ図書館で力を発揮していただきたい。
会長	これも定着している、この間は暮らしの手帖の編集者の方に来ていただいた催し、去年は藤森さんに来ていただいて。どうしても、大事なことを伝えたいと思う若い世代の参加者がほとんどない。私、最後のところで「ぜひお孫さんや子どもさんに

会 長	<p>伝えてほしい」と伝えたが、せめて未来を背負う子どもたちに平和な社会をつなぐというのが大事なことなのだが、若いお父さんお母さんの世代の参加が少ないのが残念といつも思っている。何かよい方法が来年に向けてないか。こうすればそういう世代の人に参加をしてもらえると。一般的に、お母さんたちの中でも話をしてきたが、若い世代に限らず、新聞を読まない、本を読まない、自分にとってだけ必要と思う情報はネットでちょっとみて事足りりとしている、そういう人たちが増えてきているという話をしてきた。せめて図書館でやるそういう催しにちょっと若い世代に参加してほしいと思う。</p>
事 務 局	<p>今回の暮しの手帖の編集者をお呼びする催しは、若い戦後生まれの編集者で、若い世代に来てほしいということで、中学、辰野高校、豊南短大、信大農学部、駒ヶ根の看護専門学校、諏訪の保育専門学校等近隣の大学には図書館においていただけるようにチラシをお送りした。信州大学の教養学部の中にそういった学生のサークルがあるということで職員の柴さんを通して担当の先生にチラシなどを送って学生に知らせていただくようお願いもしたが、実際はそういう世代の方は来なくて、どうやったら若い人たちに届くのかというのは模索しているというか、方法が見つからないで手をこまねいているのが現状。</p>
会 長	<p>図書館の利用でそういう年代層は傾向があるのか。ちょうど40代くらいのお父さんお母さん方の利用というのはどうか。子どもをつれてきて借りるというより自分が利用をするのか。</p>
事 務 局	<p>決まった方に限られている。小さい子どもと一緒に来る親子連れはいるが、高学年から中学、高校になると当然親離れして親とは来ない。親御さんも子どもを生んで子どもが小さいうちは一緒に絵本を借りに来たりするが、40代、50代はやはり働き盛りというか、お家のことも守っていかなければいけない、仕事もしなくちゃいけないということか、なかなかそういう世代の方がどんどん来るという感じはない。それよりはリタイヤした方、前からこの会議の席上でお話しているが、リタイヤされた方が頻繁に利用してくださるという傾向のほうが強い。</p>
B	<p>小野の中でも、せっかくあるのにどうやって図書館に関心をもってもらえるのかというのを気にしているところ。図書館とは何ぞや。探しに行くということを今の時代はしなくてもいい。では何のために本が並んでいるのか。調べることにに関して今の我々は関心が薄くなっていることは確か。安易に調べられるということもある。ただ先ほどの話で、蔵書を片付けていて本に出会うというような、行ってみなければわからない世界というのは往々にしてある。漫画がこういうところにもあるんだとか、そういう出会いのきっかけみたいなものが、来年になったらどうなるか。「図書館なんか最近ちがってるよね」って。そんな大掛かりなことをしなくても、何かそういうきっかけをつくるのが大事だと思う。具体的に何ができるのかといえば微力なので何もできないが。両小野学園でバザーを今度やると思うが、そこに顔を出して小学校でやるバザーと、ここは図書館が運よく近くにあるから、ここを何かちがった意味で立ち寄れるようなものをやりたい。まずそれには学園の会議に提案をしないとだ。あとは、ここをいつも開けてもらうのは大変と思うが、地元の人に聞いてもそんなに図書館は確かに利用されないが、地域でやっている人たちで交流ができる場はこういうところで、何か地域のことをやりたいとかいう話ができれば本当に小野にとっては大事な施設だし、そのときにじゃあ趣味でこんなことをやってみようとか、そのときにじゃあこんな本があったら調べやすいよねとか、そういった動機付けができるようなものが少しでもできればいいと思っている。この前も、合同成人式をやってここと、小野の中にいろんな昔の建物があるし、北小野には出版をした人のところもあつたりして。単なる同級会だとただ飲み会だけで終わ</p>

B	<p>ってしまう、60 過ぎると病気かそんな話かそういう話題になるんだけど。そういうときにここを開けてくださって、来たら「いいね、こんなところあったんだね」なんて、同級生なのに知らないのかよっていうぐらいだった。でも本当にこの建物というのはそういう不思議なのがあるし、また外からの人がこの図書館とかこういったものを地域の中でちがった目で見てもらうのも大事かと思う。ここで同級会開いて、本を借りるということはできなかったので、昔の思い出の写真をスライドを借りてきてここで見たりした。そういった動機付けみたいなものが少しでもできればいいと思うのでまた色々とお力をお借りできたら。</p>
A	<p>2 ヶ月くらい前に用事があって富山へ行ったついでに富山の図書館も見てきた。富山市立図書館、美術館と併設されていて、建物からすごい、有名な建築家のものでモダンアートかというようなすごくインパクトのある建物で、中も螺旋階段状になっていて、美術館と図書館があまり違和感なく、そこで常設展もあれば、その常設展もすごくお金かかっていると思うが素敵な常設展があって、クラフトもあって展示があって。その中で図書館のほうを主に見てきたが、とにかく居心地がいいようになっていて、あらゆるところにソファがあって、ちょっと隔離されたところにお昼寝したかったらここでしてみたいな長い仕切りのないベンチがあって、喫煙室ではないが人の目をよけて休むところがあったり、あらゆるところにテーブルとイスがあって、もちろんパソコンもあり平日でも結構にぎわっていた。自然もありわざわざそこに来て過ごす人たちや、結構親子連れもいたりとか。ここに来たら一日過ごせるというような、もちろんカフェもあるしレストランも入っているし、とにかく潤沢な予算が投じられていて、こんなところもあるんだというか図書館のイメージが崩れて、そこにずっと居たくなるような。身体的に少ししんどい人でも安楽に座れるようなイスがあったりとか、(本を) 借りるというよりそこで過ごしたいというような、独特で開放的で。居心地というのはすごく大事なんだと思う。もちろん蔵書もすごかったし学習室みたいなところもあまり仕切りがなくてそこに学生たちもいっぱいいるし、こんなところがあるんだと思ってみてきた。集会もいつでもできるようなスペースもあって、居心地のよさというか、ちょっとやはりカフェみたいなものがあるのはいいと考えたりした。</p>
事務局	<p>図書館とは何かという問いかけもあったが、今話題の映画が長野県にきていて、「ニューヨーク公共図書館」という 3 時間 27 分の映画、8 月 10 日から 8 月 30 日まで塩尻の東座で上映されるのでぜひ。職員は皆で観に行こうと思っている、モチベーションがあがるので。図書館はここまでできるのだということが映像として目の当たりにできるという映画、ぜひ協議会の方も関心あれば。上田や長野でも上映されている。岩波ホールの上映を終えて全国をまわっているので機会があればぜひ。</p>
会長	<p>図書館の事業計画、まだ今年度の残りがあるが充実したものとなるように協議会としても協力していきたい。 4) その他について。</p>
事務局	<p>図書選定については、協議会の皆さんが選定委員を兼ねているので、辰野図書館におきたい、辰野図書館にふさわしいと思われる図書を随時お教えいただきたい。図書選定ではないが、昨年度のベストリーダーということで昨年度読まれた本のリスト、参考にさせていただきたい。</p>
館長	<p>この 4 月にきたもので、今までの小野図書館の経緯等聞くわけだが、今年 2 月 28 日の図書館協議会において、小野図書館のあり方について、今までこのように検討してきたという話があったかと思う。その時には「すぐなくなるわけではない」という話で終わっていたと思うが、それ以後、町の理事者と、平成 27 年には両小野振興会と小野区長の方から今後のあり方ということで要望書が出されている訳だが、</p>

館長	<p>それについて検討する中で、この3月に地元の小野区、その当時の両小野振興会の会長、宇治町議と現在の区長の方へ、町からは副町長、宮澤教育長、前任の原課長を交えてこの図書館について説明に上がった次第。その席において、利用者数とか利用冊数とかについては先ほど報告のあったように少し延びてはいるが、できたら令和2年の3月を持って、今の図書館の機能というものについては止めさせていただいて、何らかの形で図書置く場所やデータのものは講じていくわけだが、建物は老朽化しているので新たに建て替えるとかではなく、小野区の中でも農民研修センターが古くなって耐震も手狭というのもあるので改築・新築したいという要望もあって、その中で図書コーナーを設けるのか、そういうようなことも検討しながらしていきたいという方向で、3月の小野区の役員会にかけてほしいということで投げかけた次第。3月15日だったか、役員会の中で区長の方から地元の方へ図書館のあり方について報告させていただいて、先程言ったように来年の3月閉館という形でどうかということでも話したところ、異議がなかったという回答をいただいている。ただ、小野区民に対しては周知徹底はこれからということも昨日聞いていた。通常ならこの協議会にかけてまた上の会へ、委員会等へ諮っていくのが順番かと思うが、今まで何年かかけて練ってきた中で、地元の区また両小野振興会の方へ諮りながら、この図書館のあり方について町としての方向性を出させていただいて、地元の方からは了解していただいているという経過である。今日初めて聞くという委員さんもおいでかと思うが、町の現状等考えながら、この図書館も先程も言われたように建物も本当に味のある会場なので、建物自体もまた使うことは可能かと思うが、耐震とかもあるので、後利用については建物は建物で考えるが、この中の蔵書についても辰野図書館の方へ一時的に移すとか検討しながらやっていったらどうかということでも提案させていただきたいと思う。</p>
会長	<p>ただいまのことについて、協議会とすればどういう風な姿勢まで考えれば。例えば皆さんの意見を聞いて協議会としては反対という意向なのかとか、了承するとか、どういう風に持っていけばいいのか。</p>
館長	<p>話を聞く中では、町と地元の方で方向性が決まっているので、それに向けて協議会の方にもご理解いただいて、よりよいこの施設の閉館に向けて準備をしていかなければいけない。急に明日からおしまいという話ではなくて、どんな風にしていったらいい資料が保存でき、建物利用についても検討していきたいと思っているので、そんな形で投げかけさせていただいて、前向きに検討していただければありがたい。</p>
会長	<p>協議会とすれば、ここの図書館機能は来年3月を持ってやめると。もうひとつのこの施設の後利用については今後の課題だと。特に前段の図書館の機能が、確かに利用者数は本館に比べればとても少ないが、非常に貴重な本もあるわけでこれを活用している子どもたちや住民の方もいらっしゃる、そういう点からすると協議会とすれば図書館の機能を、ここがなくなった場合にどうするかという辺りを中心に話をしていきたいと思うが、基本的には地元の了解も、現時点でというか役員会の段階では得られていると。町の方向性も、そういう方向でご協力いただきたい、ご理解いただきたいという。</p>
A	<p>辰野図書館に資料を一部移すのか。</p>
会長	<p>全部は多分(無理)、先程さっと見た感じ本館ほど蔵書整理はそんなに頻繁にやっていないが、相当古いものもあり、郷土資料等貴重なものも、そういう貴重なものを保管のため辰野図書館に。ほかのものをどうするかというのがまだ決まっていない。その農民研修センターへ持っていったらどうかとか、でもそこも老朽化しているのでそれなりの整理が必要だと、これだけものも持ち込むスペースが作れるか</p>

会 長	という問題もあり非常に難しい。
B	図書館の機能をしないということは貸出はしないけど、他で問題なければそれなりに使えるということか。
館 長	そういうことも考えながら。全部壊してしまうのではなくて。建物はぜんぜんいじらない。
教 育 長	正直言うと教育委員会でも十分検討もしていない。私が今まで思っていたのは、新しいところへ図書館機能を移す、小野の新しい区役所なり今の農民研修センター的な、区役所的な建物ができた暁にはその一室に図書館機能を移せればという思いをずっと持っていた。いずれはこれは閉めていかなければいけないのだが今のままでは利用されないのも、もっと区民に、小野区の人たちの目に触れるようにするにはそういうようなところへ移すのがベストだろうという思いでずっといた。そういう思いで私も話をしてきたつもりが突然ぽんと、来年閉じますって副町長が言って「えっ」て。期限が出たのがこの時。それまで私全然副町長とそういう話をした訳でもなく、突然ふってわいたような。その中で区と話をしたのは、基本今毎日開けているのを閉じるのだけれど、利用したいという申し出があった場合いくらかでも開けて利用していただく、先程の同級会だとか他の会で何かに使いたい場合はいくらかでも開けましょうという、そうなった場合掃除とか色々どうなるのかと思ったり。
B	これを維持するのに、前にも話し出たけれど、夏場はいいけど冬は来たくないとかそんな寒さで、でも小野には公民館とかそういったところがないので、そういうのでちょっと利用できるのか。だからどのくらい維持がかかってくるのか、そこらへんが、利用する側からするとどのくらい利用できるのか、金額的な問題とかも考えなくてはいけない。
会 長	根幹のところ、教育長の話のように教育委員会として検討を全くしていない段階で話が進んできていたという、その辺りの違和感がどうしてもあるわけだが、大きい方向付けだけは町として決めて地元の了解も第一段階までは得たと。そうすると当然小野区の住民の人たちはどうなのか、率直なところ多少は関心はあるのか、存続問題について。
B	議会報告の中で閉館になるというようなことは、なんかどうかでは聞いているけど、現実に関心があるように建物とか今まであった本だとかが具体的にどうなるんだろうとかというのに関しては、そこまでまだ関心がないのか危機意識がないのかというところはある。ただそれが何もなくなってしまうのは余りにも、これだけのいろんな本があり建物もあるということではやはり、コンセンサスが取れるような状態を作れるのか。区会議員をやっているがそういう話でもできればいいのだが区会も多岐にわたってしまっ。ただ関心のある人とか、前の宇治町議がここを利用するにあたって本当に何回も会を開いて、どうしよう、ああしようと言った経緯があるし、自分もそこには参加させてもらった経過があるので、何とかそこら辺は、情報発信じゃないが少しずつでも分かることをみんなに、地域の人に、地域といっても小野ばかりではなくて、北小野も図書館はあるけれども、やはりこの小学校を出た人たちからすれば、北も南も関係ない。「むらとしょ」というもので一つの通過点になっている。そういった思い入れ深いところだから、何とかそこは大事にしたいと思う。
教 育 長	信毎にでた、小野図書館来年度末で閉館と、カラー写真で。
会 長	住民サイドで困るとか言う声はなかったか。
B	結局そういう声が集約される場がない。地域の人たちにしても今社会に対して余

	<p>り関心がない。ましてやここは不思議なことに、信毎に出ればだがたつの新聞に出ても塩尻の人たちは見ない。だから情報の共有が「むらとしょ」だっていっても北小野の人はそういう話があるのだから言うくらいの世界になってしまう。そこら辺がこの地域は大変なところ。今で言えば自分の関わっている両小野学園の子供たちとかその卒業生とかそういう人たちのほうがかえって思い出深いし関心もあるか。そういうときにネットじゃないけど発信できれば。まあ余り拡大するとだけ、現実はどうなっていくかという推移だけはきちんと知らせていかないと。</p>
事務局	<p>私の立場でこういうことを言うのがいいかどうか分からないが、平成27年11月30日に振興会と小野区から要望書があって、それに対する正式な文書での回答があったか。そういうものなしに副町長が閉鎖と、来年3月にやめると言った一言で決まってしまうということは信じられないしものすごく違和感がある。教育委員会の中での協議もない、図書館協議会でも、前の課長からその他で説明はあったけれども、正式に協議をしたことは一回もない。そんな中で、そういう風にもう決まってそれでじゃあこれから建物の後利用とか資料について考えていかなきゃいけないと言われても、方法論としては少し足りないのではないかと思う。5年後とか10年後に、これは前の協議会でもお話したが、小野図書館という公共施設が、90年続いた公共施設の存続か廃止を決めるについて、どういうプロセスで誰がいつどういう発言をして、どういう段階を経て決まっていったかというものを、きちんと公文書として記録に残しておかないと、後々問題になるのではないかともものすごく懸念している。副町長が言ったことが全てと言われればもう、そうなのかと思うがちょっと承服できない部分が、職員の発言としてはどうかと思うが正直な気持ちを発言した。</p>
B	<p>そこら辺だけでも何か時系列みたいな形で、こういう話し合いが行われてこうなったとか、こういうときに話し合ってきた、そういう要望書が出されて何年かたったらこういう回答があってこういう意向だったという、時系列みたいなものが欲しい。</p>
会長	<p>副町長の提案までの間のことについては何か、館長のほうではあるか。</p>
館長	<p>前回のこの会議では閉館という話はない、議事録を見ても。それ以後の、地元と町側の説明の中で一応、閉館という形を提示させていただいた。その間には予算査定もあり、その席でも閉館という話ができたようだ。</p>
A	<p>要望書のほうが気になる。どういう要望、それに対する答えはあったのかなのか。</p>
館長	<p>その要望書の時には、この建物自体は存続ということ前提での要望書なので、機能は別。</p>
事務局	<p>機能は辰野図書館の分館として継続することを望んでいるという要望。「建物は、存続のための建物耐震化等必要な改修を行い、加えて辰野図書館分館として位置付けていただき、データベース化等による管理の効率化、利便性の向上に意をおいた小野図書館の住民ニーズに沿った再生を強く要望いたします。」という内容。</p>
会長	<p>その段階ではそれが小野区の意向だった。その間の、副町長発言までのところはどういう議論があったのかということところが分からない、空白ということ。</p>
A	<p>ちゃんと答えないとめる。何かあったのならちゃんと知りたい。協議会として何を言ったらよいか。</p>
会長	<p>今までの要望の段階から副町長の発言、それが一応町の意向ということだがそれが提示されて、今年3月の小野区の役員会ではとりあえず了承された。住民への説明等はこれからということ。この議題に入る冒頭で申し上げたとおり協議会とすればやはり当初の、振興会長から要望のあった、建物をきちんとしたものに整備し</p>

会 長	<p>なおして、図書館機能を継続するという事だった。その中で最低限、図書館機能をどうするかということについてが一番、この協議会としてはそこが一番ポイントになる。だからもし、来年の3月で図書館機能は閉じる、今後の活用法については今後検討していくということ、もし了承するとするならば、図書館機能をどうするかということを中心と話をしていくということが建設的な方法かと思うが、それはそれで、これだけの本があるわけだし、現時点でそれを置く場所がないということもある。図書をおけば蔵書管理という機能を当然それも伴うわけで、そういうことを含めてやっていけるか。町がこれを閉鎖したいという一番のところは結局お金がかかるということか。このままでは公共施設として耐震構造だとか防火の関係だとか、そういうことをするには。当然計算もされたのか、どのくらいお金がかかりそうで到底それは無理だと。そこら辺は区の役員会には提示されたのか。もし皆さんのご要望どおり維持するにはこれだけのお金がかかって、町の財政状況からこれは無理だとか、そういうデータのものはどうだったのか。</p>
館 長	<p>建物がどうこうの話でなくて、耐震とかそういうものからの話を、今現在維持費がどのくらいかかっているという話はしていると思う。その当時の、要望した当時の委員またや役員に対して、その要望書に対して町は検討したけれど町の結論とすれば閉館という形で理解していただきたいということで説明したと聞いている。</p>
A	<p>でもその記録は残っていない。</p>
館 長	<p>記録というか、それは昨日確認してきた。区会に出したというのも確認してきた。</p>
会 長	<p>内部的にはあると思うが。</p>
館 長	<p>最終的には書類として回答しなければいけないと思うが、まずは口頭で打ち合わせさせていただいて、地元の役員会にかけていただきたいということでその旨伝えて、3月15日には役員会にかけて、役員会の中では異議がなかったということで聞いている。町のほうとすればこちらの協議会のほうに、後先になってしまうが、方向性だけは一応、町と地元、同じ方向性を向いているから、今度は内容的なものを検討いただいて、図書館の財産とか機能をどうしていくかということを検討していただければありがたい。</p>
会 長	<p>この協議会の役割の中でどこまでそのことに関われるかということになるが、先ほど教育長からあった、教育委員会としてほとんどそれに関わらない中で進んできた問題については、委員会どうこう言っても始まらない問題だが、私たちも教育委員会の大きな括りの中の一つの組織と考えれば。教育委員会としてはどうなのか。</p>
教 育 長	<p>全く協議をしていないので、方向性も何もない。</p>
会 長	<p>ここでは、そういう段階なら特段、現時点で協議会としての意見という風なことは、これは了承しましたとも反対ですとも、今日の段階では。</p>
事 務 局	<p>いずれにしても今日の会議録を作成してお送りするので、その段階で、ここにいたるまでの経過、先ほどBさんの言われた時系列の経過、公文書になるものであればその公文書の写しとか、きちんとした資料を揃えて、まず委員の皆さんには見ていただかないといけないと思う。それで来年の3月末が結論であるということであれば、その手続きの齟齬のある部分はきちんと整合性をとっていただいて、それに向けて準備をしていかないといけないと思う。実際これだけの図書館の機能を閉じるということになると、条例のことももちろんあるし、ソフトをどうするかということもあるし、その辺の具体的なことももう今から考えていかないと、このままの状態でも結局、本が死んでしまう。本が死んでしまうのは私たちにとっては</p>

事務局	<p>耐え難いこと。人が来ないところに本だけあるなど、考えただけで涙が出る。そういうことも具体的に考えていかないといけない時期に来ている、今からでも間に合うかどうかというくらいのタイミングと思う。とりあえずは、事務局としては時系列にきちんとまとめたものと、今の段階では協議会としてはこの結論に対しては是非は出せないということ、会議録には明記をしておくことくらいかと思う。</p>
館長	<p>教育委員会で検討していないということだが、平成31年1月25日に教育委員会があり、そのときに小野図書館について次のとおり協議ということで、“現行の図書館活用状況は限界である。現図書館は閉鎖の方向で検討したい。今後の図書館の活用についてはより地域住民が活用できる方向を検討し、建物は図書館機能を切り離し、新たな活用を地元と協議していきたい。”ということで投げかけさせていただいて、それに対して委員会の委員からの反対意見はなかったということなので、全然協議していないわけではなくて、大どこの“閉じる方向”については教育委員会に投げかけてあるし、それについて了解いただいているということだと思っている。具体的な、来年の3月とかについては当然このときには報告していないが、閉館やむなしという形で理解をいただいているということで、その後、こちらの方で地元なりに協議しているというようなことなので、その点だけは理解していただいて、全然協議なしでここへかけているのではなく、地元へも言っているわけではなく、一応教育委員会には1月25日に、その前の7月17日には社会教育委員がここへ来て同じような話で現場を見ていただいて、意見をいただいた経緯もある。2月4日には第1回の辰野町総合教育会議ということで、外部の皆さんからの意見をいただくところだが、ここでも小野図書館の方向について協議ということでいただいている。小野図書館については閉館の方向で検討していくという提案をさせていただいて、反対意見はなかったということ。本当にこの協議会だけが一番最後になってしまったが、具体的に来年の3月末という話がそれまで出てこなかったことは事実だが、閉館に向けて検討していくということに対しての反対意見はなかったということで、その点だけご理解いただきたい。</p>
教育長	<p>結局それが先ほど言った範囲で終わっている。先ほどと同じ説明をすると、図書館としての機能はこの場所では限界であるということで、新たな、別の活用方法を考えていくと、建物とはまた切り離して建物をどうするかというのはまた別のまた文化的な要素もあるので別に活用を考えるということで、新たな、農民研修センター等新築したときにそこに入れる、そういう説明で、教育委員会でもそれしか話していない。</p>
B	<p>一旦、その辺を文書化してもらって、資料をそれぞれの立場の人で見てもらって、そうすれば地元、それこそ小野も北小野も含めてここの人たち、ここを利用してきた人たちとかそういう人たちにきちっとしたものを伝える。こういうことになっていったんだ、そういうことなんだって見えてこない。机上の空論じゃないけど噂話のような。</p>
教育長	<p>要望書が出されたころの小野区の中でこの小野図書館のあり方検討委員会が何回かもたれていた。</p>
B	<p>かなりいろいろな話をしたし、本当にこのことに関して北小野と一緒に話をしたというのは画期的だった。図書館の人たちも本当によく来てもらって、それで毎回きちんとした資料と、会議の時にはこんな話が出たというのをきちんと出されていた。それはもう宇治町議が主になって、これはすごいと思った。</p>
会長	<p>来年3月という日が山田副町長からあったということが教育委員会では全く。</p>
教育長	<p>そう、だからあの場で突然だったので、宇治町議と区長との懇談の中で出された</p>

	ので。
会 長	<p>今日はこの辺まで。資料をまた整えていただいて、私たちに検討させていただく機会を与えていただきたいと思います。場合によっては臨時の会議も、次回（会議は）は10月、3月という期限が指定されているということになると。重たい課題である、これからまた皆様のお知恵、ご意見をいただくことが多くなると思うがお願いしたい。全体を通して何か。（なし）予定を少しオーバーしたが大事な課題についてご意見いただいた。非常に、セミも鳴いてさわやかな中でできた。暑い日が続くがご自愛ください。</p>